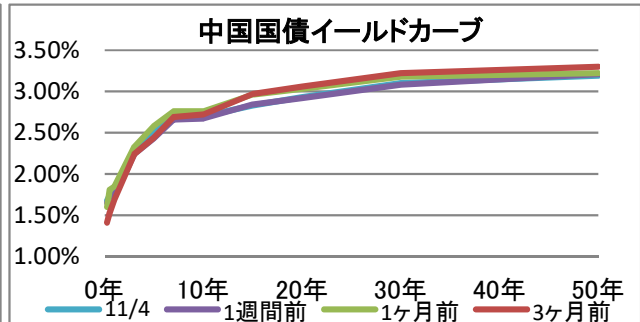
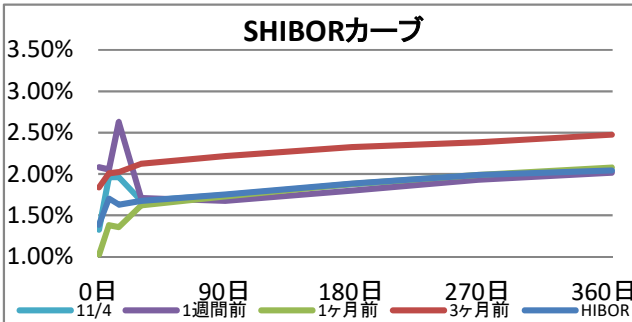


基準レート		2022/11/4	(前週末比)
人民元基準値	USD/CNY	7.2555	+0.0857
	JPY/CNY	4.9097	-0.0019
SHIBOR	3M	1.7540%	+0.0110%
国債利回り	10年	2.70%	+0.03%
上海総合指数		3,070.80	+154.87



(1) 概況

国際金融市場では、米国のFOMCが予想通り4回連続となる75bpの利上げを決定し、その後のパウエル議長の会見内容もタカ派的だったことから金融引締め政策懸念からリスクオフとなり、その後の雇用統計で失業率の上昇と平均賃金上昇の減速がインフレのピークアウトを想起させる内容だったことを受けて債券、株式ともに下げ止まる展開となった。

中国金融市場では、来春にもゼロコロナ政策が緩和されるとの噂や改革開放路線継続への期待に加え、米国上場中国企業に対する米国による初回監査が早期に終了したとの報道もあって、国外資金が流入に転じて株式市場は大幅に反発し、債券市場は利回り上昇に転じた。外為市場でも、米中金利差を背景とするドル高から7.32台まで上昇していたものの、元が買戻される格好で7.2台に戻して週末を迎えている。

中国では、習主席が独首相会談や国際輸入博覧会挨拶で、対外開放は中国の基本国策であり、高いレベルの対外開放を進め、経済グローバル化の正しい方向を堅持する意向を示し、金融当局も香港での国際会議等で金融市場の開放政策継続を強調しており、共産党大会後の対外政策への懸念に配慮したと思われる対応が続いている。また、国内景気浮揚についても、劉鶴副総理や中国人民銀行行長が相次いで支援方針を示している。銀保監会と証監会は個人年金実施法の施行に併せた関連規則の制定等により対応している。

(2) 金融市場調節

中国人民銀行は、リバースオペり日8500億元に対し、新規リバースオペり1130億元の実施により、ネットで7370億元を吸収。

(3) 主な経済指標

- ・ 国家統計局のPMI (10月) は、製造業が49.2% (9月、50.1%)、非製造業が48.7% (同、50.6%)、総合は49.0% (同、50.9%) といずれも50%を下回った。製造業は、生産、新規受注を含む全サブ指数が50%を下回ったほか、非製造業では、コロナ感染再拡大の影響で、小売、宿泊、飲食等が45%を下回る厳しい内容。
- ・ 財新PMI (10月) は、製造業が49.2 (9月、48.1) と前月比では改善したものの分岐点の50を下回ったままであり、サービス業は48.4 (9月49.3) とコロナ感染再拡大による内需の低迷と外需の悪化を主因に前月を下回る水準となった。

② 資金市場

(1) 人民元資金市場

	SHIBOR	無担保資金	レポ	NCD AAA
ON	1.3860%	1.4300%	1.3500%	
1W	1.7020%	1.7900%	1.6000%	
2W	1.6280%	1.8000%	6.5000%	1.4800%
1M	1.6750%	2.6000%	1.7000%	1.5500%
3M	1.7540%	2.2000%	2.1000%	1.9000%
6M	1.8840%	3.5000%		2.0000%
9M	1.9890%	2.6500%		2.0700%
12M	2.0430%	3.1000%		2.0850%

年末が意識される時期となり、月初とあって短期の金利水準が低下する一方で年末を越える期間の金利は高止まりしており、ターム物の出合いは1ヶ月の1.7%以上での出合いを除き限定的。

NCDも、年末や来年の春節が意識されて金利水準がじりじりと上昇する展開が続く、ターム物は1ヶ月が1.6%前後、3ヶ月1.9%台前半、6ヶ月が2.0%前後、1年が2.05%前後に上昇して取引されている。

(2) 米ドル資金 (本土内)

	BID	OFFER
ON	3.80%	3.81%
1W	3.90%	3.95%
1M	4.05%	4.10%
3M	5.00%	5.10%
6M	5.30%	5.50%
12M	5.50%	5.70%

FOMCが予想通りの4回連続で政策金利を75bp引き上げを決め、引き締め継続とその効果を見極める姿勢を示したことから、金利水準は大幅に上昇。ターム物は1ヶ月を除き年末越えとなることもあり、利上げ後のターム物の出合いは1ヶ月の4.0%台での出合いを除き限定的。

③人民元債券市場

	国債	地方債AAA	金融債AAA	社債AAA	社債AA
3M	1.68%		1.92%	1.99%	2.14%
6M	1.74%		2.00%	2.06%	2.22%
1Y	1.76%	2.01%	2.14%	2.15%	2.46%
3Y	2.28%	2.40%	2.46%	2.56%	3.02%
5Y	2.49%	2.64%	2.78%	2.93%	3.59%
10Y	2.70%	2.95%	3.14%	3.33%	4.10%

債券市場では、週前半にFOMCを控えた世界的な長期金利の上昇やゼロコロナ政策緩和への期待から中国の債券利回りも上昇に転じ、その後も米雇用統計を控えていることや米国上場中国企業の監査が早期に終了したとの報道等による株高もあって利回りは小幅ながら一段と上昇。ただし、米国債利回りは米金融引締め政策の長期化懸念から大幅上昇に転じており、10年米国債利回り（4.16%、+15bp）の中国国債利回り（2.70%、+3bp）の上回り幅は+146BP（前週比+12bp）と再度拡大に転じている。

イールドカーブは、年末越えが意識されて短期が下げ渋り、中長期も世界的な債券利回りの上昇とゼロコロナ規制緩和期待から利率債利回りが上昇したことから、利率債はイールド全体が上方にシフトする一方で信用債ではフラットニングが続く展開となり、クレジットスプレッドは中長期で縮小に転じている。

④先物為替市場

	USD / CNY
1M	-132.2 / -131.0
3M	-510.0 / -507.0
6M	-1145.0 / -1142.0
9M	-1810.0 / -1800.0
12M	-2450.0 / -2440.0

対ドル基準レートは7.2555と前週比+857pipsのドル高元安（2008年1月以来）、対円基準レートは4.9097と同-19pipsの円安元高と、ドル高による元安を牽制する元高での設定が続いている。中国国内市場では、米FOMC前後に7.32台まで元安が進んだものの、ゼロコロナ政策緩和期待から米雇用統計前に7.26台まで元が買い戻され、米雇用統計発表後にはドル安から7.18台まで元高が進んでいる。

先物は、FRBの利上げ決定後のパウエル議長の会見により米ドル金利の一段の上昇への懸念から、スワップのマイナス幅は1年物で-2400台に拡大している。

⑤金利スワップ

	Quarterly 7d Repo A/365	Quarterly 3M SHIBOR A/365 A/360	Annually O-N SHIBOR A/365 A/360
3M	1.88%		1.51%
6M	1.91%	1.89%	1.58%
9M	1.95%	1.99%	1.65%
1Y	2.00%	2.08%	1.76%
3Y	2.30%	2.52%	2.00%
5Y	2.54%	2.88%	
7Y	2.68%	3.06%	
10Y	2.81%	3.22%	

スワップ金利は、利率債利回りの上昇によりイールド全体がパラレルに上方シフトしており、クレジットスプレッドには概ね変化なし。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
 ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
 ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入